

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会だより

第9号

2004年10月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://homepage3.nifty.com/biotope/index.html>

発行責任者： 篠崎 将

Tel/Fax: 04-7173-6353



名戸ヶ谷小稲刈り終わる

5・6年生123人が生きものいっぱいのビオトープで



9月7日(土) 名戸ヶ谷小学校5年生48人、6年生75人の合計123人が朝9時にビオトープに集合。責任者の阿部先生の指示に従い5・6年生80人がそれぞれ5人組×16グループに分かれ、その他の子どもたちは「稲の運搬と稲干し」作業担当として10人×4グループに分かれ、9:10分から作業に入りました。名戸ヶ谷小からは5・6年生担当の千木良、桜庭、大谷、阿部、の諸先生の他に学校長、中村先生、学年PTAの方々も参加されました。11時少し前に稲刈り作業を終え、束ねた稲は2台のリヤカーで学校まで運び、プールのフェンスに干しました。鎌の使い方・稲束の結び方は事前に学校でリハーサル済みでした。刈った稲を木道に運ぶ人、束ねる人、のコンビネーションも順調で、作業はスムーズに進行しました。(広報編集部)

このビオトープは生きものの楽園だ - 当日のインタビュー記録から

泥んこになって稲刈りをしている小学生に広報編集部ではインタビューを試みました。頬つべたに泥をつけた女の子やカマキリを手にした男の子が息をはずませながら一言感想を寄せてくれました。

疲れた(6年 恩田誠樹君)

どろだらけになったけど、楽しかった(5年 山藤志織さん)

ここはドロドロだけど、自然がいっぱいある(5年 岩瀬慎吾君)

手がドロで重いけど、ザリガニとかカエル、カマキリなど、生きものが一杯で楽しい(5年 清宮慎之介君)

生きものがいっぱいいて、このビオトープは生きものの楽園だと思った(5年 木村一隆君)

よく切れる稲とよく切れない稲があった(5年 飯野慎吾君)

子どもたちにも私にとっても、とても珍しい体験を楽しませていただきました(6年PTA 石戸由美)

名戸ヶ谷小学校の阿部雅彦先生から後日以下の「稲刈り感想文」が寄せられました。

ビオトープに行ったら稲がとても育っていて米がいっぱいできていました。稲を刈るとき、ザリガニがいましました。足がはまって転びそうになりました。思ったよりかんたんにできました。すごくドロドロになったけど、とても楽しくて、いい経験になりました(5年 西沢 真名)



私は稲の刈り方がすごく下手で、4-5回引かないと刈れませんでした。そしたら、そばにいたおじさんが「ななめに刈ると刈りやすいよ」と教えてくれました。そのやり方でやると、ズバット1回で刈ることができました。私は楽しくなって、どんどん刈りました。今度は交代して稲を結ぶ係りをやりました。大変だったけれど、とても楽しかったです。

(5年 田上 耀)

不耕起稲作部会

倒れた稲に苦勞

今年の稲の刈り取り作業は皆さんの応援をいただき9月11日(土)に終わりました。稲の倒れがあり、刈り取りに苦勞しました。昨年より2倍以上の時間がかかりました。天日乾しも「ホタル部会」の囲いを利用して頂き、大変助かりました。米作り2年目で、昨年にもまして「米作りへの先人の苦勞と知恵」を強く感じました。

実った稲の倒れは哀しいことです。ましてや、台風で壊滅した稲を思うと他人事ではありません。



ぬかるみに悪戦苦闘



ピオトープでおだ掛け

今年は昨年よりいろいろな動物が豊かになりました。

雀対策のネットもトライしましたが、不十分でした。しかし、台風も含めて、環境と調和した米作りに来年も挑戦したい。これからの予定では、脱穀作業、楽しい収穫祭がありますが、来年に向けて一番の作業は「稲の倒れ対策」です。水田を固めるための排水路の改修作業を10月中旬より予定しています。(才川 寿磨)

水田稲作部会

今年は豊作

今年は豊作です。5月11日に田植えをしてからちょうど120日目の9月7日が稲刈りになりました。5日に雀ネットをはずし、稲刈り当日は、名戸ヶ谷小学校の5・6年生と先生方、お母さん方、環境保全課のみなさん、それに不耕起稲作部会をはじめ、大勢のピオトープ会員の手助けを得た作業となり、午前11時頃に無事に終了しました。最初に増田さん、小岩井さんにお手本を見せていただき、稲刈り班、束ね班、リヤカーによる運搬班、フェンス掛け班と分かれて、会員や先生方の指導の下で作業は要領よく進行しました。



奮闘するピオトープ会員



プールフェンスで天日干し

刈り取った稲は2台のリヤカーで5回程往復して名戸ヶ谷小学校プールのフェンスに掛けましたが、その後、干してあった稲束は乾燥具合を見計らって取り外していただき、既に校舎内に保管されています。ありがとうございました。

10月2日予定の不耕起部会の脱穀に続いて、10月3日に水田稲作部会の脱穀・選別作業、10月4日に名戸ヶ谷小学校の脱穀が予定されており、10月末には収穫祭が予定されています。みなさん、最後までがんばりましょう。(小笠原 智)

お知らせ

不耕起稲作部会脱穀：10月2日 水田稲作部会・名戸ヶ谷小脱穀：10月初旬
ピオトープ収穫祭：10月31日(日)10時からピオトープ。参加費1000円
市民自主企画講座「もっと知ろう柏の町!」：10/2 ~ 11/6 毎土曜日13:30 ~ 中央公民館
公開講座：シボヅム「残そう! 柏の自然と文化」：11月6日(土)13:30 ~ 中央公民館

生きもの部会

子供たち中心の生きもの観察会

9月5日(日) 柄沢先生を講師に招き、生きもの観察会を行いました。雨模様にもかかわらず25名の参加がありました。今回は子供たちが多く11名でした。会員が捕まえた昆虫やカエルなどを柄沢先生が面白く説明すると、子供たちは目を輝かせて生きものに触っていました。

カエルのお腹をたたいて催眠術をかける実験を見た子供たちは、早速自分で試して驚いていました。

生きものの生態について先生と子供たちとの活発な質疑応答が見られましたが、答える子供たちの知識の高さには横で聞き入る会員大人もびっくりするほどでした。

「カマキリの目は夜には黒くなる」「巣の上でクモが頭を下にしているのはいざという時に素早く逃げるため」これらは先生の質問に対する子供たちの答えです。

観察会の最後は、子供たちによる網での水中生物の採取でした。あいにくの雨で中断となりましたが、子供たち中心の生きもの観察会は楽しく有意義なものでした。(佐々木 光正)



ホアカガエルに見入る子供たち



アジアイトトンボの説明をする柄沢先生

出会った生きものリスト

シオカラトンボ、クビキリギス、アジアイトトンボ、カマキリ、チガバチ、ニホンアカガエル、コバネイナゴ、アメリカザリガニ、ナガコガネグモ、アゲハチョウ、コガタズメバチ、カダヤシ、クチボソ、シュレーゲルアオガエル、ウスカワマイマイ

名戸ヶ谷ビオトープそば

看護師寮の建築計画

名戸ヶ谷ビオトープの西側に建築計画が進行中の名戸ヶ谷病院看護師寮問題について



名戸ヶ谷ビオトープのそばの建築計画公開板にお気づきですか。

名戸ヶ谷ビオトープの西側に名戸ヶ谷病院看護師寮の建築計画が進んでいます。

7月12日に名戸ヶ谷病院と建設会社に計画概要の説明をお願いしました。

名戸ヶ谷ビオトープの西側、オカダ美容室との間の土地(約1928平方メートル)に幅約15m、長さ約56m、鉄筋コンクリート造2階建て(建築面積約883平方メートル、延べ面積1734平方メートル)の看護師寮が立ちます。予定工期は平成17年1月～8月下旬です。

8月の名戸ヶ谷ビオトープを育てる会幹事会で名戸ヶ谷病院看護師寮の建築計画について検討を行いました。看護師寮の建築によって名戸ヶ谷ビオトープの活動に支障をきたさず環境が現状よりも改善されるように、建物周辺の緑化、建物の目隠し、外部照明と遮光、湧水への影響と地下水汚染の防止などについての要望書を9月2日に名戸ヶ谷病院に提出しました。

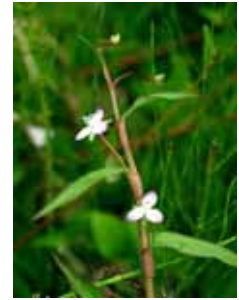
名戸ヶ谷ビオトープの景観に合った看護師寮となるように、皆で知恵を出し合うと共に名戸ヶ谷病院にご理解とご協力をお願いしていきたくと思います。(三坂 俊明)



花だより

佐々木光正

10月は今年最後の花の月です。ピオトープで最も背の高い植物ヨシが花穂をつけています。ヨシは一見見栄えのしない花ですが、秋の空を背景にその姿を仰ぎ見ると何故か遠い昔が偲ばれます。目を足元に転じると、そこには紅紫色の小さな花が一面を覆っ



ています。ミゾソバです。ミゾソバはセリと共にピオトープの下草を構成している主要植物です。秋の水田は春と並んで多くの水田雑草が見られます。ミゾソバ以外にはピンク色のイボクサ(写真上)、タデ科のヤノネグサ、キク科のタウコギがあります。また、湿地性植物ではありませんが、野菊の一つのカントウヨメナ(写真左)が点々と咲いています。花は大きく花弁が僅かに紅色に染まっています。ピオトープの中に帰化植物が多く進入していますが、その代表がアメリカセンダングサです。咲き終わった後の独特の形をした実が衣服に付き、取り除くのに困った経験をされた方も多いと思います。会では本種の駆除に努めています。

名戸ヶ谷の昔

田中清一氏(78歳)談 (自宅にて)



「小金牧」と「野馬除土手」 藪崎弥惣治家から中原小・中学校の間を通り抜けて馬場へ向かう山の中の小道があるでしょう。あそこにも庚申塔があったんだよ。やはり、顔や口、耳を押さえた3匹の猿を刻んだ像がね。昔の中原はクリ、松、ナラ、楠の大木が鬱蒼と茂る森でね。人っこ一人住んでいなかった。子供の頃、よくクリ採りに行ったものだよ。中原一括18丁歩は昔、小金在住の江戸幕府の野馬奉行、綿貫安左衛門が慶応から明治の御世に変わる時に幕府から下賜されたものを、地租改正で不毛の地に税ばかりとられるのはたまらない、と明治22年に名戸ヶ谷の大長木

村家に酒2本をつけて引き取ってもらった。今の馬場の所有者の先祖だね。

野馬奉行とは、世襲で、幕府天領小金牧を巡視する奉行のこと、柏市の大半は昔は小金牧、つまり幕府の軍馬の産出地だったからね。南部馬1,300頭を常時放牧し、一旦緩急あれば徴発したんだね。点在する百姓の作物を荒らしたり、逃げたりしないように、二つの野馬除土手を農民に築かせ、高田、下野、上野、中野の牧を野馬奉行に巡視させた。明治2年に廃止されて入植が始まるけれど、当時の野馬除土手は今の豊町から豊住の裏を経て東武野田線を越えて東北北に伸び、緑ヶ丘交番前に野馬除土手跡の史跡がありますよ。

この史跡を建立したのは名戸ヶ谷郷士会で、そばの深い低地には野馬井戸がありました。高田の牧では「こんぶくろ池」も昔は馬の水飲み場でしたよ。土手は交番から北上し、今のマツモトキヨシ店横を抜けてバス通りを横切って柏駅に向かう斜めの路地に入る。ここが木戸らしい。そこから更に駅前通りを横切り、イトーヨーカ堂へと続く。この辺りには最近まで小土手が残っていましたよ。もう一つは今谷上町と豊町の水戸街道。ここに新木戸があり、ここにも名残の野馬除土手が残っています。(聞き書き 広報編集部)

田中清一氏 : 柏市老人クラブ連合会副会長 他



小金牧野馬除土手史跡

(緑ヶ丘交番前)

編集後記: みなさんの協力で無事に2年目の収穫を終えました。今年の夏は記録的な連日の猛暑。おかげで、稲の生育も例年よりも早く、今年は豊作でした。しかし、不耕起稲作栽培の水田の方は折角の実った稲が9月の台風で倒れて泥がつき、その分、稲刈りは大変でした。歩留まりがどの程度になるのかも、ちょっぴり気がかりです。ともあれ、10月31日の収穫祭を楽しみに。 広報編集部(春山)